

生活科・総合だより

第78号

令和2年2月29日

東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会

発行人 齋藤 等

編集人 小高和子

事務局 東京都葛飾区立宝木塚小学校

葛飾区宝町2-29-23

☎03-3693-4788

全国大会の報告「神戸・明石・淡路から」

東京都小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究会

副会長 宮崎 倉太郎

(武藏野市立境南小学校長)

11月14・15日に第28回全国小学校生活科・総合的な学習研究協議会兵庫大会（第22回近畿地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会兵庫大会）が、神戸市・明石市・淡路市内において開催されました。

研究主題「兵庫発!! 未来への懸け橋～子供が変わる 教師が変わる 学校・地域が変わる～」のもと、今大会は3市での開催であり、新学習指導要領全面実施を目前にした大会にふさわしい充実した二日間となりました。

1 研究主題から

研究主題の、「～が変わる」に沿ってまとめると、「子供が変わる」では、「見通し」と「振り返り」を明確に位置付け、思いや願いを実現するプロセスや探究のプロセスを大切にし、子供たち自身が学びの連続性を自覚化できるようにすること、「教師が変わる」では、「教師が教える」から

「子供が学ぶ」への教育観・授業観の変革を目指し、育成すべき資質・能力を明らかにすることや、指導と評価の一体化を重視すること、「学校・地域が変わる」では、社会に開かれた教育課程や、幼児教育から高等学校教育までを見据えた資質・能力の育成について考えることを意図し、地域での価値ある素材や地域人材の発掘や学びの連続性についても、生活科・総合的な学習の時間の果たす役割が大きいこと、等が強調されていました。

2 公開授業

3市の学校でそれぞれ公開授業が展開され、私は明石市立大観小学校を参観しました。

同校は、創立111周年の伝統を誇り、地域には多くの寺社が並ぶとともに、播磨灘に面し、海苔や蛸、鯛をはじめとする「海のまち」でもあります。そうした背景から、公開授業も大観の自然や町、未来の大観に関する内容で展開されていました。

同校では、研究主題「主体的に表現し、心響かせ合う大観っ子～体験を軸に伝え合い、思考が深まる授業の創造～」のもと、学校として重視している体験活動をいかに探究的な学びにつなげるかという視点を大切にしていました。目指す資質・能力を踏まえた学習材の意味や価値等を十分に吟味していること、児童の振り返りを重視することはもとより、教師も授業の映像を活用しながら「リフレクション」の時間を定期的にもち、改善に生かしてきました。

私は主に第4学年の「発信！発信！大観のまち守り隊～おじいさんやおばあさんの力になろう～」を参観させていただきました。

登下校の見守りで出会う地域の方とのかかわりから、「もっと元気になってもらうには？」の課題に向き合い、多面的に思考・表現する子供たちの真剣な姿と、単元のねらいを踏まえつつもファシリテーターに徹する授業者の姿が印象的でした。

3 課題別分科会

上記3会場で合計36の課題別分科会が行われました。東京都からは、旧第5分科会の提案があり、カリキュラムデザインのワークショップに関心を示した参加者から、終了後も様々な質問等があり、全国に向けてのよい発信ができたと感じました。

A分科会（生活科：単元の初期段階）
「児童が思いや願いをもち続けることができる活動の工夫」
～環境構成や他教科との関連を通して～
目黒区立東根小学校 福島沙紀子

1 研究主題について

小学校学習指導要領解説生活編（平成29年7月）には、生活科の教科目標の背景として、児童の生活から学習を出発させることや、児童の思いや願いを生かすことの重要性が示されている。そこで、本分科会では、それらを実現する手立てを、環境構成、また他教科との関連に着目して検討することで、児童が思いや願いをもち続け、主体的に学習することにつながるのではないかと考え、主題・副主題を設定した。

2 研究の概要

これまでの実践事例を分析し、環境構成の工夫や、他教科との関連など、具体的な手立てについて整理・検討した。また、それをもとに実践研究を行った。

(1) 具体的な手立ての作成と実践の整理

- ① 児童が思いや願いをもつことができる環境構成の工夫
- ・学習対象に興味をもつことができる「第0次」の設定
 - ・学習活動に応じた環境構成の更新
 - ・児童の多様性を引き出す場の設定
 - ・交流しながら思考を整理し、新たな思いや願いを見付けたり認識を深めたりする場の設定
 - ・人との関わりを通して思いや願いを広げる機会の設定
 - ・児童の身近な人々、社会及び自然と繰り返し関わる機会の設定
 - ・自分自身の成長に気付き、次の活動の意欲へつながる振り返りの工夫

- ② 思いや願いをもったり、それぞれの教科の学びをより深めたりするための教科を関連させた指導の工夫

- 2年生 内容(7) 動植物の飼育・栽培
- ・算数「長さをはかる」
 - ・道徳「帰ってきたホタル」（自然愛護）
 - ・国語「図書館へ行こう」との関連

(2) 実践研究

- 1年生 内容(5) 季節の変化と生活
- 単元名「あきとなかよし」
- 大田区立久原小学校 小笠原さちえ

B分科会（生活科：単元や授業の中盤）
「人との関わりを通して、
新たな気付きを生み出す指導の工夫」
府中市立矢崎小学校 樋口 玲奈

1 研究主題について

学習指導要領（平成29年告示）では、他者と協働して課題を解決していくことや、よりよいコミュニケーションを通して、互いの交流を豊かにすることが求められている。それを受け、本分科会では、意図的な交流を通した発見は、新たな気付きを生み、さらに気付きの質を高めることができるのでないかと考え、主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 気付きと新たな気付きについて

学習指導要領に示されている文言を整理し、気付きと新たな気付きを以下のように捉えることとした。

- 「気付き」→具体的な活動や体験を通して関わる対象へ生まれた気付き
「新たな気付き」→自分の中で振り返る場面や自分と他の者の気付きを関連付けて表現する場面（振り返り・交流・表現すること）などを通して生まれる気付き

今年度の実践では、①気付いたことを振り返り表現したり、②伝え合い・交流を通したりして得た気付きに重点を置いて研究を進めてきた。

（※詳しくは指導要領解説p. 92やp. 94参照）

(2) 授業研究

令和元年11月19日(火) 第2学年

内 容 (3)地域と生活 (8)生活や出来事の伝え合い
単元名「ふなばしのステキ」を見つけよう
授業者 世田谷区立船橋小学校 元山 真澄

(3) 研究主題に迫る手立て

- ①互いを認め合う風土を醸成するために

・子供同士が意図的に関わるための工夫

- ②気付きを高め、新たな思いや願いをもたせるために
- ・気付きを拾い、つなげる工夫
 - ・発問・声掛けの工夫

3 成果○と課題△

○児童の思いや願いに沿った指導計画と、活動の選択ができる展開を設定したことで、児童が自ら進んで取り組む姿が見られた。

△深まりのある交流の実現に向けて、児童が他者と自分の違いなどを自覚し、活動に生かすよう「比較する」視点を明確にする必要がある。

C分科会（生活科・単元や授業の終末）
「生活科の深い学びを支える
表現活動の工夫」
大田区立松仙小学校 松村 英治

1 研究主題について

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編によれば、生活科における深い学びとは、気付きの質が高まることだと言える。これを実現するために着目したのが、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)」である。

生活科においては、「表現し、考えることができるようになる」と記述されているように、表現しようとすることを通して思考すること（思考と表現の一体化）を目指しており、さらにそのことによって気付きの質が高まることが求められる。本分科会では、表現活動に内在する3つの機能（目的・対象・方法）に着目し、これらを明確にした上で単元指導計画に位置付けることが重要だと考えた。単元の目標に合った表現活動を意図的に単元指導計画に位置付け、児童が思いや願いを具現化しようとする過程でその表現活動に取り組むことにより、単元の目標に沿った思考が発揮され、深い学びが実現できると考えた。

2 研究の内容と方法

- (1) 表現活動に内在する3つの機能を明確化した単元指導計画を作成・検討し、実践を通してその効果を検証する。
- (2) 作成した単元指導計画の中から表現活動を抜き出し、3つの機能と「①言葉（書く）、②言葉（話す）、③絵・動作・劇化」という視点から分析し、分類表の中に整理する。
- (3) 表現活動の実際について、様々な視点から分析し、まとめることで資料化を図る。

3 成果と課題

表現活動の中に教師の指導性を埋め込むことで、児童が思いや願いを生かしながら単元の目標に沿った思考を発揮することができた。さらに、表現活動の目的を教師が意識することで、表現したことをクラスの中で共有して気付きの質を高めたり、次の学習へ向かう力を高めたりすることができた。

今後は、表現活動の3つの機能と気付きの質の高まりや多様な学習活動、学習評価などとの関連、また、絵や動作、劇化などの文字言語ではない表現活動の在り方について検討していく。

D分科会（総合：単元の初期段階と課題の更新）
『ブレークスルーから始まる深い学び』

江戸川区立南小岩第二小学校 小島 雄貴

1 主題設定の理由

「総合的な学習の時間の準備及び初期段階」を研究の切り口として本分科会は発足した。初期段階に關しては、旧5分科会が、単元構想時のカリキュラムデザインについて研究をまとめている。しかし、単元構想はできてもその後の学習活動が思うように進まず、探究が深まらない事例があることが課題に挙げられていた。そこで、分科会メンバーの実践を分析したことにより、

- ① 探究課題となるための材を見付ける難しさ
- ② 材を児童の思いや願いとつなぐ難しさ

- ③ 児童の探究的な学習への没頭感の弱さ

などに行き詰まり感や停滞感を感じている教師が多くいることが分かった。

このことから、過去の事例を基に行き詰まり感や停滞感の傾向について分析したり、それらの突破（ブレークスルー）につながったきっかけや手立て、打開策についてまとめたりすることで、探究課題の更新につながる有効な手立てが確立できるのではないかと考え、研究主題を「ブレークスルーから始まる深い学び」とすることとした。

2 研究の内容と方法

(1) デザインからマネジメントへ

単元の実践を通し、実際の指導では、どのように計画に修正を加えていったのかを明らかにするために、以下のような話し合いを行った。

- ① 実践より行き詰まり感や停滞感の検討
- ② 探究課題の材や単元デザインの見直し
- ③ 行き詰まり感や停滞感を突破したブレークスルーについての検討
- ④ 行き詰まり感や停滞感を突破するブレークスルーの方策の提案

(2) ブレークスルーの検証・分析

結果、ブレークスルーには、2つのタイプがあることが分かった。

- ① 意図的なブレークスルー
- ② 偶発的なブレークスルー

3 今後の研究の方向性

どの停滞場面には、どのようなブレークスルーが効果的なのかカテゴライズし、その手立てが有効なのか実践検証していく。

E分科会（総合：単元や授業の中盤）

「発達段階を踏まえた目指す姿や指導の工夫の明確化
～「中盤」に着目した検証授業の比較を通して～」

新宿区立市谷小学校 藤本 道生

1 研究の内容と方法

本部会には17名が所属している。これまで別の分科会に所属していたり、初めて推進委員になる者が多かったりするため、研究の内容を新たに書き上げる必要があった。そのため、夏季研究会では、自己紹介を兼ねて各自の実践を紹介したり、分科会での研究に対する思いを共有したりした。

9月以降は、第3学年と第6学年の2つの授業について検討する時間を設定し、各自のこれまでの実践や参観した授業などをもとに多くの意見を交わすことができた。その中で、「3年生だと、ここまでは難しいかな。」、「経験を積んできた6年生にはここまで求めたい。」など、発達段階を踏まえた意見も多く挙がった。今後もそれぞれの発達段階の特性を吟味した上で、その特性に合った指導の工夫や、育成を目指す資質・能力の明確化を図りたい。

2 2つの検証授業を通して分析すること

- ・授業中の児童の発言、話し合いの様子、活動の様子をもとに、第3学年、第6学年のそれぞれの特性
- ・授業での児童の学びの様子、振り返りの記述から、本時のねらいは適切だったか
- ・授業展開や発問、教師による問い合わせなどの指導の工夫は適切だったか

3 2022年度全国大会（東京開催）までの予定

2019：E分科会メンバーで授業公開、授業づくり。アイディアを出し合う。

2020：「探究ガイドブック」作成。
完成を目指す。

2021：「探究ガイドブック」の活用。
実際に見えてきた課題をテーマに
設定し、研究を深める。

2022：全国大会で発表する。

F分科会（総合：単元や授業の終末）

目的に合わせて考え、自分の思いをもって
表現できる児童～まとめ・表現の充実に向けて～

世田谷区立用賀小学校 池田 正治

1 研究主題について

充実した「まとめ・表現」の学習活動を行うためには、明確に相手意識・目的意識をもつことや、自分の思いを明確にすることは重要である。このことから、目指す児童像を「目的に合わせて考え、自分の思いをもって表現できる児童」と設定し、各教科での表現方法を振り返ったり、学習記録をもとにしたりしながら「まとめ・表現」に入るための時間を設定することで、目的に合わせて考え、自分の思いをもって表現できる児童を育成することができるだろうと研究仮説をたてた。

2 研究の概要

以下の4点を軸に研究を進めることとした。

(1) 基礎研究

小学校学習指導要（平成29年告知）解説 総合的な学習の時間編では、「まとめ・表現」についてどのように述べられているのかを調べる。

(2) 調査研究①

児童が国語科ではどのような「表現」の学習活動を経験するかを明らかにする。本分科会委員が所属する学校において使用する国語科の教科書2社に記載されている「表現」を洗い出す。

(3) 調査研究②

本分科会部員が所属する学校に勤務する教員に「総合的な学習の印象」「まとめ・表現の対象」「まとめ・表現の方法」についてアンケートを行い、どの様な「まとめ・表現」がどの程度行われているかを調査する。

(4) 実践検証

学習単元の「まとめ・表現」の活動に入る前に、各教科での表現方法やこれまで経験した表現活動等を振り返る「まとめ・表現」に入る時間を設定した研究授業を行う。

実践授業者：世田谷区立塚戸小学校 佐藤冴理
単 元 名：「塚戸の屋上盛り上げ隊！！」

2 成果と課題

＜成果＞児童が相手意識をもって表現方法を選ぼう
とすることができた。

＜課題＞教師が児童にどのように視点を与えるか、
方法やタイミング等を吟味する必要がある。

G分科会（生活科・総合的な学習の時間）
その時子供が動いた
生活科総合的な学習の時間の単元
墨田区立二葉小学校 松原 大樹

1 テーマ設定の理由

本分科会は「生活科」と「総合的な学習の時間」に跨った分科会として、今年度より立ち上った。実践をもちより、分科会のメンバーが共通して大切にしている点を探すことから始めようと考えた。すると、次のようなことが見えてきた。

- ・実践者たちは、生活科・総合的な学習の時間を、大きくは棲み分けて考えていない。
- ・子供が学習の文脈を創るように単元を進めている。
- ・単元の終末には、人への憧れの念や物事に対する愛着などの感情を抱いている。
- ・その道中には、子供を動かす何らかの仕掛けがある。

そこで、生活科・総合的な学習の時間において「子供が動き出す瞬間」にはどんなことが起こっているのか、教師の手だけや子供の姿から実践を見つめていこうと考え、今年度の研究テーマを設定した。

2 研究の概要

(1) 研究の内容

「子供の活動パフォーマンスが向上する」「子供の考えの質的变化が起こる」「子供が単元を進めようとする」そのようなタイミングには、子供にどのようなことが起こっていたのか、どのような状況に置かれていたのか、授業記録を基に分析する。

(2) 研究の方法

それぞれの実践者が授業公開をしたり、授業実践記録や映像を持参したりして、子供が動き出す瞬間を読み取り、なぜそうなったのか協議する。

3 考察

子供が動き出すきっかけには、「感動」と「衝撃」があった。前者は、単元指導計画を立案する段階である程度想定して出会いの手だけで講じができる。一方で、後者は、教師が子供の思いや活動の状況を的確に見取り、柔軟な姿勢で対応しながら単元を展開していくことが求められる。

研究員（生活科・総合的な学習の時間）
「児童が自分たちの生活や自己の生き方について、主体的に考えるための指導の工夫～人との関わりを通して～」
大田区立羽田小学校 三森 望美

1 研究主題について

主体的・対話的・深い学びの実現を踏まえ、自分たちの総合的な学習の時間及び生活科の授業を振り返ると、共通課題として「児童の単元における意欲は高いが、実生活につなげたり学びを自己の生き方につなげたりする児童は限られている」ということが挙がった。この課題の解決に向か、「自分とのつながりを考え、学校外や学習が終わった後でも自ら実生活や生き方に生かそうとする姿」を「主体的に考える姿」と捉えることとし、研究主題を「児童が自分たちの生活や自己の生き方について、主体的に考えるための指導の工夫」と設定した。

2 研究の概要

1で述べた目指す児童像に迫るために、私たちは「人との関わり」が有効であると考えた。「人との関わり」の場面として、大きく以下の3つの場面を重視して単元計画を工夫した。

場面① 出会いの場面

→児童が思いや願いをもち、課題を自分事として捉えることができるようになる。

場面② 繰り返し関わる場面

→児童が新たな気付きや課題意識をもったり、思いや願いを深めたりすることができるようになる。

場面③ 振り返りの場面

→児童が自分自身の成長を実感したり、新たな課題に気付いたりすることができるようになる。

3 成果と課題

○教師が「出会い」「繰り返し関わる」「振り返る」という具体的な3つの場面を意識して単元を計画したことで、自分たちの生活や自己の生き方に生かす児童が多く見られるようになった。また、人と関わったことによる学習の深まりを児童から見取ることができた。

●ゲストティーチャーとの関わりは保障できたが、児童自身が地域や施設に出向いて調査活動をすることは十分に保障できていない。今回の実践をもとに教材研究を深め、有効な地域教材・人材を開発できるようにしたい。

事業部 令和元年度事業報告

事業部長 横山公一

(墨田区立立花吾嬬の森小学校長)

事業部は、学習会の企画実施と、生活科・総合的な学習の時間のアンケートの実施を行いました。

○研修会について

夏季学習会 45名参加

時：7月28日(金)

場所：新宿区立西新宿小学校

講師：埼玉学園大教授・秋田大名誉教授

浦野 弘先生

テーマ：「生活科・総合的な学習の時間におけるプログラミング的思考と探究的な過程を考えてみよう。」

いよいよ小学校の授業でプログラミングが始まります。小学校教育においてプログラミング教育を導入する理由として、まずはこれからの中においては、誰にとっても職業をはじめ学習や家庭生活、余暇生活などあらゆる場面で情報機器やサービスと、それによってもたらされる情報を適切に選択活用する必要性が高まるという(Society5.0)背景があります。そのような中、コンピューターをより適切に主体的に活用するための仕組みを知ることが子供たちの人間としての可能性を広げ、将来どのような職業に就くとしても重要であると、プログラミング教育の手引きの中で述べられています。

プログラミング教育に対しての関心は年々高まり、昨年度同様の会を開いた際の参加人数の倍を上回る参加がありました。

さて、本研修会においては、講師の先生より前出プログラミング教育の手引き第二版(文部科学省平成30年11月)を手掛かりにして

- ①プログラミング学習の概要説明
 - ②背景
 - ③プログラミング的思考とは・教育課程内で何を教えるのか
 - ④プログラミングの実践
 - ⑤総合的な学習の時間で目指す資質や能力
- という組立てご講演いただきました。

とらえ方プログラミング教育自体の捉え方については稻作の例、実践例としては正三角形を描くことなどが紹介されました。この教育を行うことで得られる児童への効果は、

- ①コンピューターの特性を習得し、日常生活に生かせること
- ②コミュニケーションが苦手であった子供が相手に伝わる発信ができるようになること
- ③間違いを自ら振り返り、正しい答えを導き出そうとするようになること
- ④指示待ちであった子供が主体的になること
- ⑤普段目立たない子供が輝くこと などが挙げられるということでした。また、参加者の理解を進めるために折り紙伝言(二人組の一方が段階に分けて鶴の折り方を言葉で伝え、もう一方がその通りに折る)という活動も行いました。ある課題に対して、計画を立て、試行錯誤しながら、解決に至るというスキルが自然と身につけられるというわかりやすい取組でした。

新しい教育に対して、そもそも何をどうすればよいのか、まずは理解をしなければならないといった不安感を抱いている方が多かったように思います。導入の経緯や目的、児童が獲得できる力などを丁寧に講演いただき、短い時間ながらも内容の濃い学習会となりました。講師の先生、参観者そしてご協力いただいた会場校にも感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に参加者からの感想を一部紹介します。

- ・日常生活の事柄を題材としてこの思考を育てられると分かった。
- ・トライする中で発生するエラーを見つけて、どのように修正するかを大切にするという考え方分かった。
- ・当初は難しさばかり先立っていたが、面白さや可能性を感じることができた。

○アンケート調査について

令和2年2月半ばより3月にかけて、都内各校の今年度の学習の状況について調査を行いました。集約し分析し、報告いたします。

本年度の研究のまとめ

主任研究部長 辻 泰成
(八王子市立松が谷小学校長)

1 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた
生活科・総合的な学習の時間の充実」

2 研究の概要

昨年11月の関東地区大会東京大会を一つの区切りとし、今年度は、令和4年度開催予定の全国大会（東京大会）に向けた「新たなスタートの年」と定め、以下の通り方針を決定しました。

- 新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた生活・総合のよりよい授業実践を創造する。
- 各委員の実践的な授業力を磨き、授業づくりの達成感等を高め、成果と課題を発信する。
- 各分科会の授業実践から新たな研究の視点を抽出する。

この方針を基に、分科会も所属希望を取り直し、6月から新たなA～G 7つの分科会で研究活動を開始しました。その研究の在り方は、各委員が互いに実践を出し合い、協議していくことで、生活科・総合的な学習の時間の指導に深く関わる要素を抽出するボトムアップ的手法を今年は基本として研究を進めて来ました。

3 研究の経過

(1) 総会・研究推進委全体会・講演会

【5月14日(火)】

会 場 渋谷区立神宮前小学校

講 演 「新教育課程における生活科・総合的な学習の時間～目指す資質・能力を育成するための指導と学習評価」

講 師 文部科学省教科調査官 渋谷一典 先生

(2) 第1回公開研究授業・研究会

【6月24日(月)】

会 場 練馬区立光和小学校

授 業 1年 生活科「きれいにさいてね
ぼくのわたしのあさがおさん」

授業者 指導教諭 根本 裕美 先生

講 演 「生活科において育成を目指す
資質・能力と授業改善」

講 師 文部科学省教科調査官 渋谷一典 先生

(3) 夏季研究会

【8月3日(土)】

会 場 渋谷区立神宮前小学校

内 容 A～G分科会並びに研究員会 各分科会、
研究員から実践の様子の紹介・研究の視点等の提案
実践提案「生活科の本質に迫る栽培单元の実践」

講 演 「新学習指導要領完全実施まであと半年！生活科・総合的な学習の時間における学習指導の充実」

講 師 文部科学省教科調査官 渋谷一典 先生

(4) 第2回公開研究授業・研究会

【10月28日(月)】

会 場 西東京市立谷戸第二小学校

授 業 6年総合的な学習の時間
「プロジェクトNASU 谷戸二と海外をつなげ！～誰もが過ごしやすい学校を目指して～」

授業者 教諭 藤原 真琴 先生

講 演 「生活科において育成を目指す

資質・能力と授業改善」

講 師 文部科学省教科調査官 渋谷一典 先生

(5) 冬季研究会

【令和2月29日(土)】

会 場 渋谷区立神宮前小学校

内 容 A～G分科会並びに研究員から研究の報告
関東大会・全国大会の報告

講演・講師

文部科学省教科調査官 渋谷一典 先生

4 次年度に向けて

A～G、7つの分科会それぞれに以下のように研究のテーマ・視点が絞り込まれてきました。3学期に入り、それぞれのテーマに沿って仮説をもち、授業研究を行う段階に進んでいます。

A 「児童が思いをもち続けることができる学習活動の工夫～環境構成や他教科との関連を通して～」

B 「人との関わりを通して、新たな気付きを生み出す指導の工夫」

C 「生活科の深い学びを支える表現活動の工夫」

D 「ブレークスルーから始まる深い学び」

E 「発達段階を踏まえた目指す姿や指導の工夫の明確化」～「中盤」に着目した検証授業の比較を通して～

F 「目的に合わせて考え、自分の思いをもって表現できる児童～まとめ・表現の充実に向けて～」

G 「その時子供が動いた 生活科・総合的な学習の時間の単元」

2月の冬季研究会後に、役員会・論点整理委員会で次年度の会としての研究主題、各分科会の主題を調整し固めていく計画です。

第29回 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
第22回 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
令和2年度 千葉県教育研究会生活科・総合的な学習教育研究協議会

千葉大会実行委員長 小山 光子

千葉大会

研究主題

「はばたけ！未来を創る子どもたち」 ～探究を見つめなおし 探究を創造する～

1 期 日 令和2年11月12日(木)・13日(金)

2 会 場 (1日目) オークラ千葉ホテル (全体会・レセプション)
(2日目) 千葉市立幕張小学校 千葉市立おゆみ野南小学校

3 主催等 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
関東地区小学校生活科・総合的な学習研究協議会
千葉県教育研究会生活科部会・総合的な学習部会 他



4 日 程

【11月12日(木)】

12:00	13:00	13:30	15:00	15:10	16:30	17:00	18:30
受付 関 東 理 事 会	開 会 行 事	シンポジウム 基調提案 県内各地区実践発表	休憩	記念講演 (対談)	全 国 理 事 会	レセプション	

【11月13日(金)】

8:30	9:00	9:30	12:10	13:00	15:00	15:30	16:00
受付	開 会 行 事	公開授業	昼食	課題別分科会	移 動	指 導 講 評	閉 会 行 事

5 記念講演

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 渋谷 一典 先生
國學院大學人間開発学部初等教育学科 教授 田村 学 先生

6 連絡先

※ ご不明な点がございましたら、下記へご連絡ください。

実行委員長 千葉県富里市立富里第一小学校 校長 小山 光子
TEL 0476-93-6881 FAX 0476-93-6928